

こんにちは 市民病院です

最近の脳卒中治療
飛騨市民病院

脳卒中と言われる病気のうちで脳の血管が突然つまってしまうのが脳梗塞(のうこうそく)ですが、最近、脳梗塞についての治療方法が非常に進歩してきました。

その一つは血栓(血管にしまった血のかたまり)をアルテプラゼという点滴注射にて溶かす「血栓溶解療法」です。この方法は脳梗塞が起きてから4.5時間以内に治療を開始する必要があります。

もう一つは、カテーテルを血管の中に入れて直接血栓を取り出すといった非常に高度な方法で「血栓再建術」という方法です。こちらは脳梗塞になつて12時間以内に治療を開始することが基本となります。うまくいくと半身麻痺となつて歩けなかつたような状態から、麻痺が回復して歩けるようになることもあ

る画期的な治療方法です。

しかし脳梗塞の患者さん全員がこれらの治療の適応となるのではなく、治療が可能かどうかは高度な医学的判断が必要であり、実際の治療については専門病院でないと行えません。また、一言で脳梗塞といっても患者さんによっては症状が典型的ではなく複雑であることもあります。

飛騨市民病院では、富山大学附属病院の専門医と常に連絡をとれる体制をとっており、脳梗塞の患者さんが受診された場合には直ちに脳のCT画像やMRI画像を専門医の先生に転送し判断を仰ぎ治療方針を決定します。そしてこれらの治療が必要な患者さんについては速やかに専門病院に送れるよう、病院スタッフが一丸となつて対応する診療体制を整えております。

専門医がいない当院でも市民の皆様が万一の時に安心して高度先進医療を受けられるよう全力で頑張っておりますので、ご理解とご支援をお願いいたします。

問 飛騨市民病院
0578-821150

※今月号の「まめなかな」は都合によりお休みさせていただきます。次回、7月、8月号に掲載いたします

みんなで活かして
楽しい毎日!

飛騨の薬草を学ぶ 教養講座

カキ

日に日に緑が濃くなってきましたね。これから夏に向けて紫外線など肌の健康が気になる時期になってきました。

肌の健康を考えるにはビタミンCを十分に取ることも大切です。そんな時にいい薬草がカキの葉です。採り立てのカキの葉を噛んでみると酸っぱみがあります。それもそのはず、カキの葉100gにはなんとレモン13〜15個分ものビタミンCが含まれています。

カキの葉は、長期間使うためには乾燥させて保存し、お茶にするのがいいのですが、カキの葉は枝から切り離れた瞬間から、酵素の働きでビタミンCが急激に減り始めます。採ったばかりでツヤツヤして広がっていた葉っぱがみるみる内側に巻き始め元気がなくなります。早くしないとビタミンCはほとんど無くなってしまふのですが、熱湯に2分くらゐすると減少を止めることができます。多くのビタミンCを残すために

はあらかじめ湯を沸かしておくなど、採取後の素早い作業がポイントです。

また、9月になるとビタミンCが減少したニンゲンが増えるのでそれ前に取るようにしましょう。

カキの葉茶は程よい酸味のあるお茶で、飲むことで動脈硬化や眼底出血を改善し、アレルギーを抑制しアトピーを改善するなどの優れた効果がある実験結果が出ています。もちろん美肌効果も高いので、夏の肌対策に効果が期待できます。ビタミンCの働きで便も柔らかくなるので便秘対策にもなります。

ビタミンCは水溶性で摂りすぎる心配がありません。カキの葉をたくさんストックして夏の日差し対策を万全にしましょう。



(村上光太郎「薬草を食べる」より)